営農 INFORMATION

＊今月号は私が担当しました。

営農経済渉外係
奈良　　収
〔櫛挽・本郷・川本・武川地区担当〕

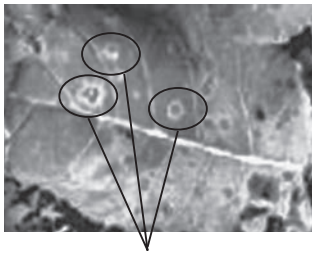
ブロッコリーの『黒すす病』について

●特徴・原因

近年被害が拡大している病気で、花蕾および葉に発生します。葉には、輪紋状の褐色から黒褐色の病斑を生じ、花蕾には、黒色の小斑点が生じたのちに拡大し、黒褐色に腐敗して周辺の蕾は黄変します。黒すす病は18℃～35℃で発病し、特に25℃～31℃前後が発病の適温で、9月～10月に発生の多い病気です。

病原菌（糸状菌）は、病斑上に生じた胞子が風雨で飛散して伝染、または、残渣と共に土壌中で生存するため、次作でも発生の可能性があります。特に、天候不順により発生が助長され、9月～10月が高温・多湿の場合は注意が必要です。

花蕾の症状
黒色の小斑点を生じる



葉に生じた円形の病斑
輪紋状の褐色から黒褐色の病斑を生じる

●対策

- 連作を避け、ネギやスイートコーンの輪作や、緑肥を播く等の対策を行なう。また、多発した圃場では土壌消毒を検討する。
- 早生品種での発生が多い傾向があるため、発生圃場や周辺圃場では、晩生品種の作付けを検討する。
- 罹病した残渣とともに病原細菌が土壌中に残って伝染するため、残渣を圃場に残さない。
- 発病期には、病斑の発生前から薬剤散布を行なう。特に、葉に症状が見られる場合は、出蕾前の防除を徹底する。

※糸状菌と細菌では、防除薬剤が異なる（一部は共通）ため、注意しましょう。

ブロッコリーの主要な薬剤例（記載農薬は2019年6月5日現在の登録状況に基づいています）

作用機構分類（FRACコード）	病原菌の分類	糸状菌（カビ）			細菌				希釈倍率・使用方法	使用時期	本剤の使用回数
	薬剤名	黒すす病	菌核病	べと病	黒腐病	花蕾腐敗病	斑点細菌病	軟腐病			
7（C2）	パレード20フロアブル	○	○						菌核病：2000～4000倍・散布 黒すす病：2000倍・散布	収穫前日まで	3回以内
	アフェットフロアブル	○	○						2000倍・散布	収穫前日まで	3回以内
11（C3）＋7（C2）	※1　シグナムWDG	○	○	○					黒すす病・菌核病：1500倍・散布 べと病：1500～2000倍・散布	収穫7日前まで	2回以内
11（C3）	アミスター20フロアブル	○		○					2000倍・散布	収穫3日前まで	3回以内
	ファンタジスタ顆粒水和剤		○						3000倍・散布	収穫3日前まで	3回以内
M01（M）	コサイド3000				○ ※2	○	○ ※2	○ ※2	2000倍・散布 花蕾腐敗病：1000倍	―	―
	Zボルドー水和剤			○ ※2	○ ※2	○	○ ※2	○ ※2	500倍・散布	―	―
	ヨネポン水和剤			○	○				500倍・散布	収穫前日まで	4回以内
41（D5）	マイコシールド水和剤							○	1000～2000倍・散布	収穫14日前まで	2回以内
31（A4）	スターナ水和剤							○	2000倍・散布	収穫14日前まで	2回以内
31（A4）＋24（D3）	カセット水和剤				○				1000倍・散布	収穫21日前まで	2回以内
24（D3）＋M01（M）	カスミンボルドー水和剤				○				1000倍・散布	収穫21日前まで	4回以内
P02（D5）	オリゼメート粒剤				○				6～9kg/10a・全面土壌混和	定植時	1回

※1　シグナムWDGは、2019年5月29日に登録変更がありました。
　　使用時期：収穫14日前まで⇒収穫7日前まで
　　使用回数：1回⇒2回以内
※2　野菜類で登録

◎農薬を使用する際は必ず使用農薬のラベルを確認しましょう